

ティム・スタフォード著

『セクシャル・カオス—性的混沌の時代を乗り切る道はあるのか』

評者・後平 一 (恵泉キリスト教会関宿チャペル 牧師)

以前、あるノンクリスチャンのカップルから相談を受けたときのことです。「なぜこの人と結婚したいのか？」と問うと、「一緒にいたいから」というよくある返答です。「では、一緒にいたくなくなったたらどうする？」と問い返すと、「その時は、別れますよ」と即答されました。

あまりにあつさりとした答えに、私の方が戸惑ってしまったことがあります。結果的に、彼らはカップルを解消していったのですが、決していい加減な気持ちで交際してきたわけではなく、自分たちのことを真剣に考えているからこそ相談にも訪れたのでしょう。しかし、何かが狂っているのです。このようなケースは彼らだけではありません。

●性的混沌の渦

婚前交渉に関しても、「それの何が問題なの？ 何を言っているのかわからない」という反応に直面させられることがあります。既婚のカップルにあつては、不倫は半ば暗黙の了解事項になっていくかのようです。何か大きな渦のように、若者たち

のみならず、大人たちをもじわじわと混沌へと巻き込んでいく現実には直面させられます。しかし私自身、その渦がどこから来ていて、どこが問題で、渦中にある人々に何をどう語っていいかわからないのか、明確にはつかめていなかったのだと思います。

●神なしの「地上天国」

本書ではまず、この大きな渦をセクシャル・カオス（性的な無秩序、混沌）と呼び、その正体を明らかにしています。著者によると、つい最近までは、性的な行動の基準があるレベルの伝統的な規範によって保たれていたといえます。しかしそれは、より新しく寛容な倫理によって急激に覆くがされてしまっています。その根底には、結婚と性に関する見方、考え方の革命的な変化があつたと著者は歴史をひも解きながら概説します。

特にここ数十年の間、神への信仰と聖書の権威が揺らぐ中で、性が人生の素晴らしい喜びと認識されるようになり、性が極めて私的なものとして捉えられ、親密さが至上のものとして追求され、性的な相性が人格や価値観に勝つて重要視されるようにな

るなど、神さまと聖書を抜きにして地上天国に至ろうとする考え方が人々を緩やかに支配していきます。このことがどのような問題性をはらみ、無秩序と混沌に人々を巻き込み、結婚の絆を弱め、犠牲者を生んできたかへの著者の解説は目からうろこです。

●困難な結婚生活でも……

後半では、聖書に示されている神さまの観点が詳細に説明されています。その中で特に「困難な結婚」に関する観点には深く考えさせられるものがあります。ともすると、私たちは自分にとつての幸せな結婚を願いますが、時に幸せではない、平和でもない状態に直面することがあります。耐え抜いて乗り越えれば幸せな結婚に至る場合もあるだろうし、すぐにはそうならない場合もあるでしょう。それでも結婚は永続させる価値があるものなのでしょうか。

このような困難な結婚に関して聖書は、個人的な幸せを超えた信仰のしるしであり、神さまの決して諦めない、屈することのない愛を理解し、指し示すものになるのだと言っています。

本書が説き明かす聖書的な結婚観について、私たち信者はよくよく熟考し、咀嚼そじやくしていく必要があると思います。

最後に著者は、私たちのなすべき働きとして、子どもたちへの性教育、私たちの結婚をさらに強固なものにしていくこと、独身の人々のためにその目的意識を発展させることという三つの領域を、しかもキリストにあつて実践していくよう提言しています。裏返して言うとも、教会においてこれらの取り組みがなされる際には、本書で述べられているような現代の見方、考え方の根底にあるものと、聖書が示す神さまの観点をよく捉えた上でなされる必要があると言われているように思いました。

子どもたち、若者たちと関わっている方々のみならず、結婚を考えている方々、独身に導かれていたいと願う方々にとつて、バックボーンとなる考え方を指し示す、一冊となることと思えます。



『セクシャル・カオス』

著者 ティム・スタフォード  
302ページ、マルコーシュ・パブリケーション刊  
1,850円+税  
\*本書は、FFJにてお取り扱いしておりません。